



(1) 2020年度公立学校教員採用試験結果

※表の見方：正規合格者数（期限付合格者数）/1次通過者数/受験者数

	東京	神奈川	埼玉	千葉	茨城	静岡	横浜	川崎	群馬	岐阜	北海道	合計
数学	2(3)/7/7	0/2/3	0/0/2				0/0/1			0/0/1	0/1/1	2(3)/10/15
理科	2(3)/5/5	0/0/1		1/1/1	1/1/1	1/1/1	0/1/1	0/1/1	0/0/1			5(3)/10/12
合計	4(6)/12/12	0/2/4	0/0/2	1/1/1	1/1/1	1/1/1	0/1/2	0/1/1	0/0/1	0/0/1	0/1/1	7(6)/20/27

※ 正規合格率=7/27=25.9% 合格率（期限付合格を含む）=13/27=48.1%

今年の試験結果は、上の表のとおりでした。今年の特徴としては、6月になって神奈川県・横浜市・川崎市が、コロナのために論文試験・模擬授業・集団討論が中止となり、早い時期から論文添削を30回以上受けてきた人にとってそれらの努力が時間の無駄になってしまったのがとても気の毒でした。東京都については、12名全員が1次通過して幸先はよかったのですが、最終的には12名中4名正規合格、6名期限付合格、2名不合格という厳しい結果になりました。

(2) 東京都を志望している人へ

東京都の教採には、他県と違う点がいくつかあります。受験を検討している人は、参考にしてください。

(1) 「中高共通」という区分について

数学や理科では、「中高共通数学」「中高共通理科（生物）」という区分で受験します。これは、合格しても中学校と高校のどちらの教員になれるか分からないということです。希望も通りません。受験生からしたら中高どちらに配属されるかは重大な問題ですが、教育委員会からすれば、どちらにも配属できるというのは好都合なのです。それは、昨今65歳まで年金が支給されない制度になり、60歳定年後に再任用を希望する教員が増えたため、新採の人数がはっきりしないという実態があるからです。でも、この状態は他県でも同じなので、なぜ東京都だけこの方式なのはよく分かりません。これまでも法政大学の先輩で一所懸命に勉強して正規合格した高校希望の人が中学校に配属されたり、その逆だったりしました。本人のモチベーションが下がるのもよく分かります。もしそうなったら、4年後の異動のときに、試験はありますが「中高一貫教育校公募異動」の制度を用いて中高一貫教育校に異動できれば、その次の異動は、中学校でも高校でもどちらにも異動できます。実際、この制度以外で異校種間異動をするのは至難の業です。

(2) 「中高両方の教員免許状が必要」という点について

東京都は、中高両方の教員免許状を取得（見込）でないと受験できません。それは、上記(1)の中高共通区分と関係があります。もし東京都を受験予定の人で高校の免許状しか申請していない場合は、受験資格がありません。もし可能なら、今からでも中学校の免許状も取得してください。

(3) 「期限付合格」という制度について

いわゆる補欠合格のことです。完全な不合格ではないのであきらめるのは早いのですが、何しろ不確定要素が多く、待たされるのに耐えられない人が大勢出ています。この4年間、法政理系の期限付合格者は、自ら私立に転身した2名を除いて、全員が翌年正規合格しています。是非とも私立学校に転身しないで、最後まで粘ってほしいです。期限付合格者は、正規合格者とは別の名簿に登載されます。そして、正規合格者全員の配属先が決まった後に空きがあれば配属されます。したがって、学校から採用の声がかかるのは早くても3月末～4月です。下手をすれば、もっと遅くなるかもしれません。学生の皆さんにとって、4月になっても仕事が確定しないのは本当に不安だと思います。しかし、期限付合格を辞退しなければ、翌年の教採では1次試験が免除になります。2次試験の個人面接と集団討論だけです。しかも、6月1日までに学校から採用のオファーがあれば、翌年にはほぼ合格します。なぜなら、既に教壇に立っている人だけで別日程の2次試験があるのと、不合格になると所属校が困るからです。だから、辞退してしまうのはもったいないです。といっても職がないのも辛いでしょう。そこで、下記の優先順位で4つを同時進行させながら、4月以降の仕事を決めていくことをお勧めします。これは、他県で再受験する人にも言えることです。

- ① 期限付合格として採用が来るのを待つ。：これがベスト！（6月1日までに来てほしい！）
 - ② 臨時的任用教員（産休代替等）に応募する。（教育委員会がWebページで募集）：①が来たら転職。
 - ③ 特別支援学級の支援員など、いつでも辞められる職に就く。：辞められる自由度は高いが収入は低い。
 - ④ 非常勤講師を探す。：学期又は年度単位の契約なので、急に①が来ても転職できない恐れがある。
- ※ ③は教職課程センターで紹介可能 ④は各自で探してください。求人が大学に来ることもあります。

合格者から学ぶ「合格しやすい志望理由」とは



教員採用試験を振り返って、100%書類に書きたい面接で聞かれない「志望理由」について改めて考えてみましょう。志望理由には、大きく分けて「**教員志望理由**」と「**自治体志望理由**」があります。

(1) 教員志望理由

これは、「そもそも何故教員になろうと思ったのですか?」という質問に対する答えです。このときにありがちなのが、「**中学校(高校)時代の恩師の影響」という答えです。これでは、まず合格しません。**何故なら、多くの受験生がそう答えるからです。面接官は、この答えに飽きています。合格するためには、他の受験生よりもキラッと光る答えをしなければなりません。「**恩師の影響」と答えた途端、大勢の不合格者の中に埋没します。**では、どう答えればよいのでしょうか。「**授業でICT機器をどんどん活用し、活動を通して関数や図形考え方を生徒に納得させたいので、教員を志望しました。**」、「**先輩の先生方が一所懸命に努力しているのに、残念ながらいじめが一向にありません。**私は、教員になっていじめについて研修を深め、いじめの根絶を図りたいと思います。」、「**昨今、大人を見ていると、どうも人間関係がギスギスしているように思えます。**生徒にはもっと優しい人間になってほしくて教員を目指しました」など、**教員としての抱負を答えればよいのです。**次に、「**そのきっかけはどんなことですか?**」と聞かれたら、**恩師との思い出を語ってもよいのです。**いきなり「**恩師の影響」と答えるのは禁句です。**日本中の教員で、恩師の影響を受けていない人は、一人もいませんから。また、「では、**どういう方法で?**」と聞かれても大丈夫なように具体的な手だてを考えておいてください。

(2) 自治体志望理由

これは、「何故〇〇県の教員を希望したのですか?」という質問に対する答えになります。このときにありがちなのが、「**私は〇〇県出身なので、〇〇県に恩返しをしたいと思いました**」といった類の回答です。**教育委員会は、教員としての実力があるかどうかを判定しています。**地元出身者かどうかは、**どうでもいいことです。**地元であることにこだわると、「**地元だからオマケして**」と言っているように聞こえます。例えば、神奈川県や東京都は教員の半数近くは地元出身者ではありません。私も面接官のときにこの答えを嫌というほど聞きましたが、思わず「**あなたに恩返しされる覚えはありません**」と思ってしまいます。では、どう答えればよいのでしょうか。これも教員志望理由と同じで、**教員としての抱負を語ってください。**そのときに注意することは、**志望する自治体との関連を意識しながら答える**ということです。上記(1)の教員志望理由は、どの自治体にでも当てはまることで構いませんが、この(2)は、「**何故他県ではなく、本県を志望したのですか?**」という質問の答えですから、他県にも当てはまることを答えたのではトンチンカンな答えになります。ここでよく用いられるのが、**当該教育委員会の教育目標に関連付ける**ことです。例えば、今年の合格者は、「**理数教育の充実**」:私はICT機器を授業で活用し、生徒が視覚的にとらえて理解を深め、数学的活動ができるような授業を行い、数学教育の充実に努める。」、「**人権教育の推進**」:私は、数学や道徳の授業、職場体験やボランティア活動を通して、東京都の目標である『**人権尊重の精神**』と『**社会貢献の精神**』を育成する。」と面接票に書いています。理数教育の充実も人権教育の推進も東京都の教育目標にある事柄です。その自治体の教育目標はその自治体独自のものなので、もし他県に同じ目標があっても構わないのです。さて、ここで重要なことがあります。教育目標には、きれいなことが書いてあります。耳障りのいい言葉が並んでいます。そのため、**いかにも取って付けたような印象を与えてしまいがちです。それでは合格しません。**書類に書く分にはいいとしても、**面接で答えるときには、必ず自分の言葉で答えることが極めて重要です。**教育目標を暗記してきたと思われたら、**ほぼ不合格です。**そのためには、**まず教員として自分のやりたいことがあって、それと自治体の教育目標とを照らし合わせて関連のあるものがあれば使えばよいのです。**もし関連のある教育目標が見付からなかったら、自分のやりたいことを優先し、「**〇〇県の生徒には△△というよさがあるので、それを生かして～を実現します**」とでも言えばよいのです。重要なことは、「**教員になってやりたいことがあるから受験したんだ**」ということを再確認してください。**1次試験に合格してから面接票に志望理由をどう書けばよいのか悩んでいるようでは終わりです。**できれば、3年生になるまでに自分ならどう答えるかを考えておくといえましょう。2月中旬に面接講習、その後3月まで面接練習と集団討論練習をします。それまでに考えておいてください。

★「**教採ガイダンス**」「**合格論文書き方講習**」「**学習指導要領講習**」「**教育法規講習**」の動画と配布資料が欲しい人は、**教職課程センター**kkck@ml.hosei.ac.jp までメールしてください。ダウンロードするURLをお送りします。

★**教職課程センター**小金井相談室は、**全力で皆さんの合格を応援します。頑張ってください! 祈 合格!!!**